

アイズシモツケ	<i>Spiraea chamaedryfolia</i> L. var. <i>pilosa</i> (Nakai) H.Hara	絶滅危惧Ⅱ類
		バラ科
選定理由	県内では産地に限られる稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。	写真(高橋弘)
形態の特徴	落葉低木。葉は膜質で卵形-狭卵形、上部は二重鋸齒縁、はじめは両面に軟毛がある。花は5-6月、葉がある短い本年枝の枝先のやや凸状の散房花序に10-20花をつける。萼片は三角形-三角状卵形で5、花後に外曲する。花弁は5、白色、円形-広楕円形、先端は丸い。雄蕊は約20、花弁より長い。雌蕊は5。袋果はやや開出する。	
生態的特徴	北海道、中部以北の本州、熊本県。シベリア、アムール、ウスリー、サハリン、朝鮮北部、満州。県内では県北東部の山地に稀。var. <i>chamaedryfolia</i> はヨーロッパからシベリアに分布。	
分布状況	県北東部の山地に稀に見られる。	
減少要因	山林管理の停滞に起因する林縁の樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。	
保全対策	山林管理の促進による林縁の低~中茎草地の維持、林床の日照確保。	
特記事項	イブキシモツケ <i>Spiraea dasyantha</i> Bunge にやや似るが、イブキシモツケは美濃中西部に分布して、萼片は反曲せず、葉の裏面は脈が隆起し、褐色の軟毛を密生する。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 4. <i>Spiraea</i> L.. H. Ikeda	

文責: 高野裕行